

8

中国四国ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者 藤井 輝久

広島大学病院 輸血部長・エイズ医療対策室長

研究要旨

本研究では近年HIV陽性者の非専門施設への受け入れを構築するための資材の開発を中心に行っているが、従来通り職種別の研修会も開催している。研修の内容も年々ブラッシュアップされており、基本的な事項からより実践的・実用的な内容になっている。血友病薬害被害者対象検査入院や検査外来（検診事業）には、昨年同様新規患者の応募があった。新たな試みとして、地域連携に携わるソーシャルワーカーと看護師を対象にしたHIV/AIDS実践報告会・検討会のためのワーキンググループの開催や、介護福祉施設向けの教育動画を作成した。さらに、拠点病院勤務医師向けの症例検討会の開催を計画している。

A. 研究目的

本研究の目的は、HIV感染症患者に対する医療・福祉サービスが他疾患と同等に行われるよう、中国・四国地方の医療及び福祉体制の整備を行うことである。具体的には、①エイズ拠点病院・中核拠点病院（以下、拠点病院）のエイズ診療の質の向上とその維持を確保、②非専門施設（病院、医院）や介護・福祉施設などにおける疾患に対する偏見からもたらす差別的対応の解消、である。具体的な方策は、①拠点病院所属構成員に対する職種別研修会の開催、②教育資材の作成・配布を行いケア提供者の人材育成と資質の向上を図ること、③非専門施設や介護・福祉施設構成員に対し、より平易な内容による教育や、患者の受け入れの促進である。また以前から薬害被害者から要望の強い「血友病」の包括的診療にも重点をおき、当該患者の高齢化および余病に対応する研究を通じて、具体的な方策を検討することも目的の一つである。

B. 研究方法

研修会に関しては、その参加者数を集計し、参加者アンケートなどでその内容の評価を行った。その際に、個人情報と思われる項目を除いた。また倫理面の配慮としては、本研究に対し自施設の倫理委員会の承認を取得した。また学会や報告書等での発表時には匿名化や集団名など、個人が特定できないよう配慮した形で行った。教育資材は、日常診療にお

ける患者、特に薬害被害者の要望あるいはブロック内の医療・介護従事者のニーズ等を勘案し作成した。以前作成したものにおいても、新たな情報が得られた場合には、その内容を反映させるために、アップデートを行った。

C. 研究結果

1. ブロックでの教育研修

1-1. 医師を対象とした研修会

開催日：2024年8月19～20日（1回目）。2024年9月9～10日（2回目）。場所：広島大学病院（広島市）。研修参加医師数：計7人。

内容は【表1】の通りで最も評価が高かったのは、例年通り「PWH/Aの体験談」であった。また研修終了後の感想では、全員が「研修内容を今後の診療に生かしたい」「後輩の医師にも勧めたい」と答えた。なお、各職種の講義資料は、「広島大学病院エイズ診療医のための研修会・資料集」としてまとめて、全国の拠点病院へ配布した。【図1】。

1-2. 歯科医師を対象とした研修会

1) 拠点病院勤務医師及び歯科医師会向け研修会

開催日：2024年11月20日。場所：岡山国際交流センター（岡山市）。6年振りに現地参集のみの形式で行った。例年通り、午後から行われる「中国・四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議」に併せる形で当日午前中に行った。研修参加

者は歯科医師・歯科衛生士併せて計28人。内容は、講演①「HIV感染症の現状－治療の進歩・流行終結への機運と残された課題－」（国際医療福祉大学田沼順子教授）、講演②「歯科への期待のメッセージ」（大阪HIV薬害訴訟原告団 代表 橋本則久氏）であった。

午後からの会議の内容は、次の通りであった。令和5年度に本会議が開催された時点で、中国・四国地方の9県のうち、8県（広島県、高知県、島根県、徳島県、鳥取県、山口県、愛媛県、岡山県）でHIV感染者の歯科診療体制（ネットワークと紹介システム）が構築されており、香川県のみ構築されてなかった。本年度の会議においても、香川県から構築の報告はなかった。しかしながら、このように、

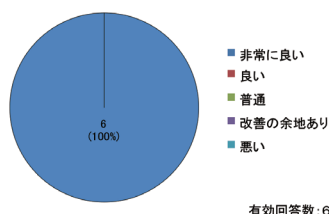


図1 エイズ診療医のための研修会プログラム資料集

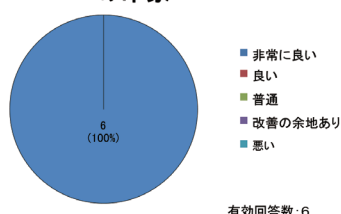
表1 医師を対象とした研修会プログラム

午前	1日目(月)	午前	2日目(火)
		9:00	演習: HIV検査の勧め方・告知の仕方 公認心理師: 喜花伸子、杉本悠貴恵 医師: 山崎尚也
		11:30	外来見学 担当(医師): 齊藤誠司、藤井輝久
		12:30	
午後		午後	
12:30	受付開始		
13:20	集合・オリエンテーション 担当(医師): 山崎尚也		
13:40	講義: HIV感染症(診療の現状と最近の話題) 医師: 藤井輝久	13:30	演習: 症例検討 担当(医師): 山崎尚也、藤井輝久
14:45	講義: 薬剤師の役割 薬剤師: 石井聡一郎	15:00	講義: 血友病の診療(薬害の歴史を踏まえて) 医師: 藤井輝久
15:45	講義: 看護師の役割 看護師: 後藤志保、坂本涼子	15:30	外来ケースカンファレンス
16:15	講義: ワーカーの役割 MSW: 村上英子		
17:00	講義: PWH/Aの体験談 担当: 当事者	16:15	演習: ポストテスト 担当(医師): 山崎尚也、藤井輝久
17:30	1日目のまとめ	17:00	まとめ・終了

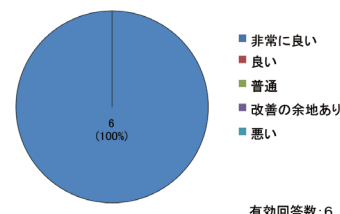
Q4: 講習会全体の印象



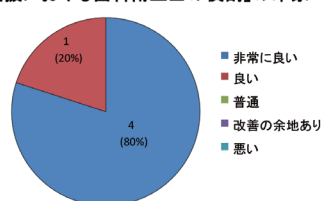
Q5a: 講演「HIV感染の基礎知識～最近の話題～」の印象



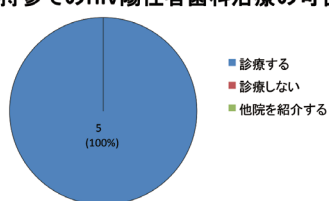
Q5b: 講演「血液曝露後の対応」の印象



Q5c: 講演「広島大学病院でのHIV陽性者歯科診療支援における歯科衛生士の役割」の印象



Q7: HIV感染症治療の担当医師からの紹介状持参でのHIV陽性者歯科治療の可否



Q8: 紹介状なしでのHIV陽性者歯科治療の可否

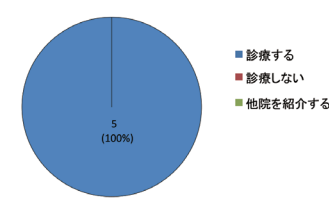
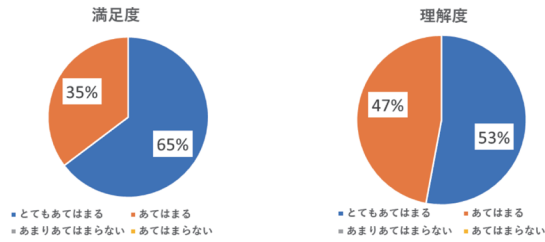
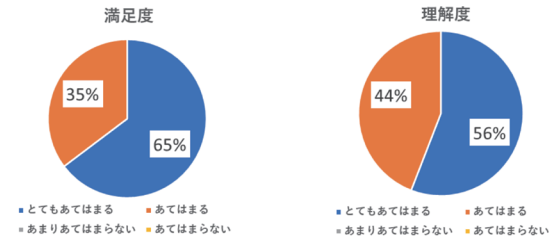


図2 広島県歯科医師会の会員・準会員のための HIV 感染症に関する講習会アンケート結果

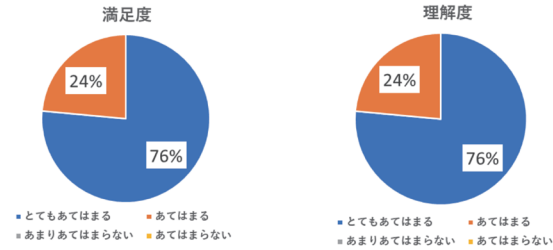
医師「HIV/AIDSの基礎知識」



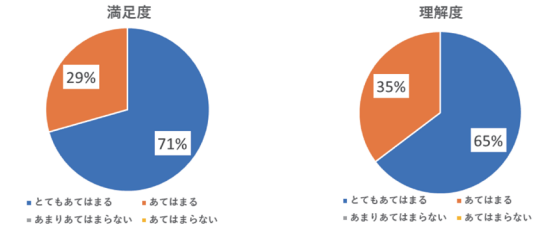
薬剤師「抗HIV薬の服薬援助について」



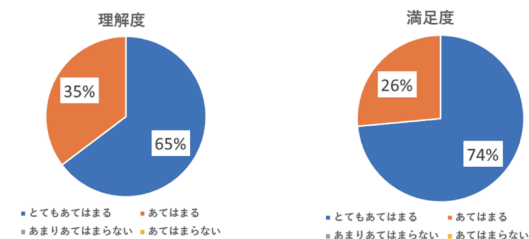
看護師「HIV陽性者の看護 総論」



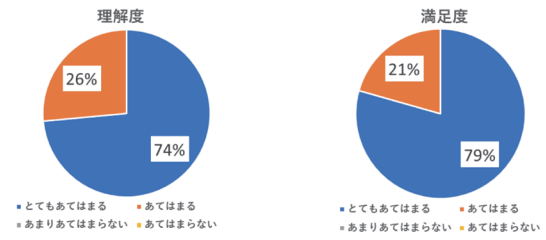
歯科衛生士「HIV疾患と歯科」



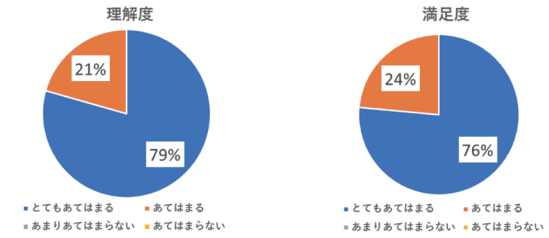
公認心理師「HIV陽性者の心理的支援」



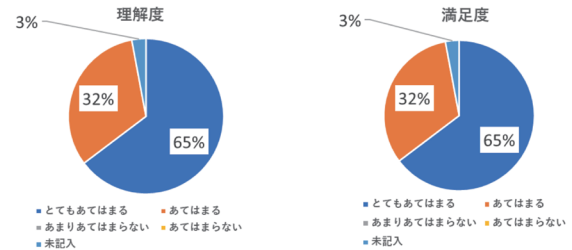
医療ソーシャルワーカー「社会資源の活用」



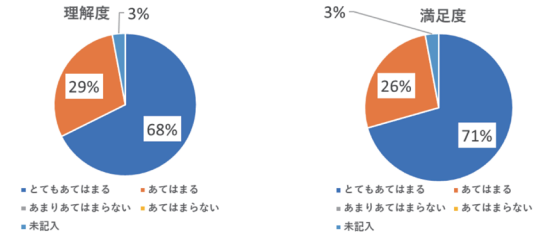
NPO法人アカー「性の多様性」



HIV薬害被害訴訟原告「薬害エイズの歴史・血友病と共に生きる」



看護師「HIV陽性者の看護 各論」



自由記載

研修終了後のアンケート自由記載（複数回答）



図3 看護師のためのエイズ診療従事者研修会

HIV感染症に関する最新情報および各県のHIV感染者の歯科診療体制の運用状況などの情報を共有することのできる本会議がHIV歯科医療の発展に果たす役割は大きいと考えられるため、次年度以降も継続することが確認された。

2) 一般開業歯科医向け研修会

開催日：2024年12月8日。場所：ホテル大広苑（竹原市）。研修参加者数6人。開催形態は参集。講演者は、東京医科大学病院臨床検査科の村松崇医師、

本院輸血部の山崎尚也医師、本院診療支援部の岡田美穂歯科衛生士の3人であった。終了後の参加者に対するアンケート結果は、【図2】の通りであった。

1-3. 看護師を対象とした研修会

1) 初心者向け（2回）

開催日：初回2024年6月27日～6月28日、2回目7月26～27日。場所：広島大学病院（広島市）（参集形式）。参加人数は2回の合計で34人。

参加者の勤務施設の94%はブロック・中核拠点あるは拠点病院であった。症例経験は62%が「なし」と回答した。県別参加者は広島県内が29%に留まり、その他9県全ての県からの参加者があった。役職別では、一般スタッフが50%と最多であったが、主任、副師長・師長など中間管理職も47%を占めた。受講動機は、「基礎知識の習得（自己研鑽）」が参加者全員で一番多く、ついで「今後患者が来た際に対応できるようになる」であった。

研修後、参加者全員に内容についてアンケート調査を実施した。結果を【図3】に示す。

3) 事例検討・症例報告（経験者向け）

開催日：2024年10月26日（オンライン形式）。参加者24人。当日午前に行われた「中国・四国ブロックエイズ治療ブロック/中核拠点病院等看護担当者会議」に併せる形で、会議終了後の午後に行った。

事例検討、症例報告それぞれ「とても有益」「有益」と答えた者が、92%、100%であった。しかしながら、会議と同日に行うことに関しては、「長くなりしんどい」という意見もあった。

1-4. 中国四国ブロック内の拠点病院に勤務またはその院外薬局の薬剤師を対象とした研修会（薬剤師のための抗HIV薬服薬指導研修会）

開催日：2024年9月15～16日。場所：広島市文化交流会館（広島市）。広島県臨床心理士会が行う「第1回HIV/AIDS専門カウンセラー研修会」との共同開催。参加者は27人。スタッフのうち薬剤師は18人であり、中四国地方内だけでなく、全国から参加があった。

講義では、琉球大学病院 仲村秀太医師より、「知っておきたいHIV感染症診療のエッセンス」と題して、HIV感染症の基礎から、フレイル、U=U、PROs、PrEP等多岐に渡る内容の講演であった。また、独立行政法人国立病院機構九州医療センターのソーシャルワーカー 首藤美奈子氏からは、「PLWHの心理社会的問題とソーシャルワーカーの役割～九州医療センターの取り組み～」の講演で、HIV感染症の治療のみでなく複雑な心理社会的背景を理解した患者との関わりが必要であることを学んだ。薬剤師のみでの症例検討では、岐阜大学医学部附属病院の石原正志薬剤師が症例提示を行い、HIV感染症分野の今後の課題である癌などの合併症を意識した関わりについてディスカッションした。

演習パートでは、「ロールプレイによる服薬指導の体験的学習」を行い、薬剤師のみでなく、専門カ

ウンセラーとソーシャルワーカーもグループに入り演習を行った。

1-5. エイズ拠点病院に勤務するメディカルソーシャルワーカー（MSW）を対象とした研修会

開催日：2024年8月31日。オンラインによる開催。中国四国ブロックエイズ拠点病院22施設、27人が参加した。

当初岡山において参集で行う予定であったが、台風10号の影響でJRが運行見合わせとなったため、急遽オンラインでの開催に切り替えた。

ブロック内の中核・拠点病院のソーシャルワーカーに、HIV陽性者に対する長期療養に向けた支援実践の工夫・難渋した点について発表し共有した。支援経験がないことで不安を抱えながら業務に取り組んでいる参加者も多く、長期療養支援の経験を共有できたことは、支援の均てん化を図るために有効的であった。他に、「HIV感染症の基礎知識・最新情報」と、大阪HIV薬害訴訟原告団代表による「薬害エイズの教訓から」の2つの講義と、愛媛大学医学部附属病院ソーシャルワーカーによる事例検討を提供した。

事後アンケートの感想では、「常に新しい情報をブラッシュアップしていくことが、支援を実践する上で重要であると感じた」、「薬害被害当事者の率直な思いを聞く度に、背景や今までの苦労をふまえて、支援していくことの意味を考えさせられた」、「高齢化の進行で、患者が療養先で困ることが無いよう、地域に向けて情報を発信する必要があると感じた」、「患者の生活に視点を置き、患者と将来の生活について語れる場を持ちたい」、「他県・他施設での現状を知る機会となった」などの回等があった。

1-6. 出前研修

2025年2月3日に、非エイズ拠点病院である広島市の吉島病院、2月18日に広島市内の居宅介護支援事業所、3月4日に同じく広島市内の特別養護老人ホームより、依頼を受けており、実施する予定である。また、出前研修の周知は、広島県エイズ治療中核拠点病院等連絡協議会及び医療従事者研修会のみならず、広島県健康福祉局医療介護基盤課、広島市健康福祉局高齢福祉部の協力を得て、案内のチラシの配布を依頼した。

1-7. その他

本項では、実施主体（主催）が本院ではないが、

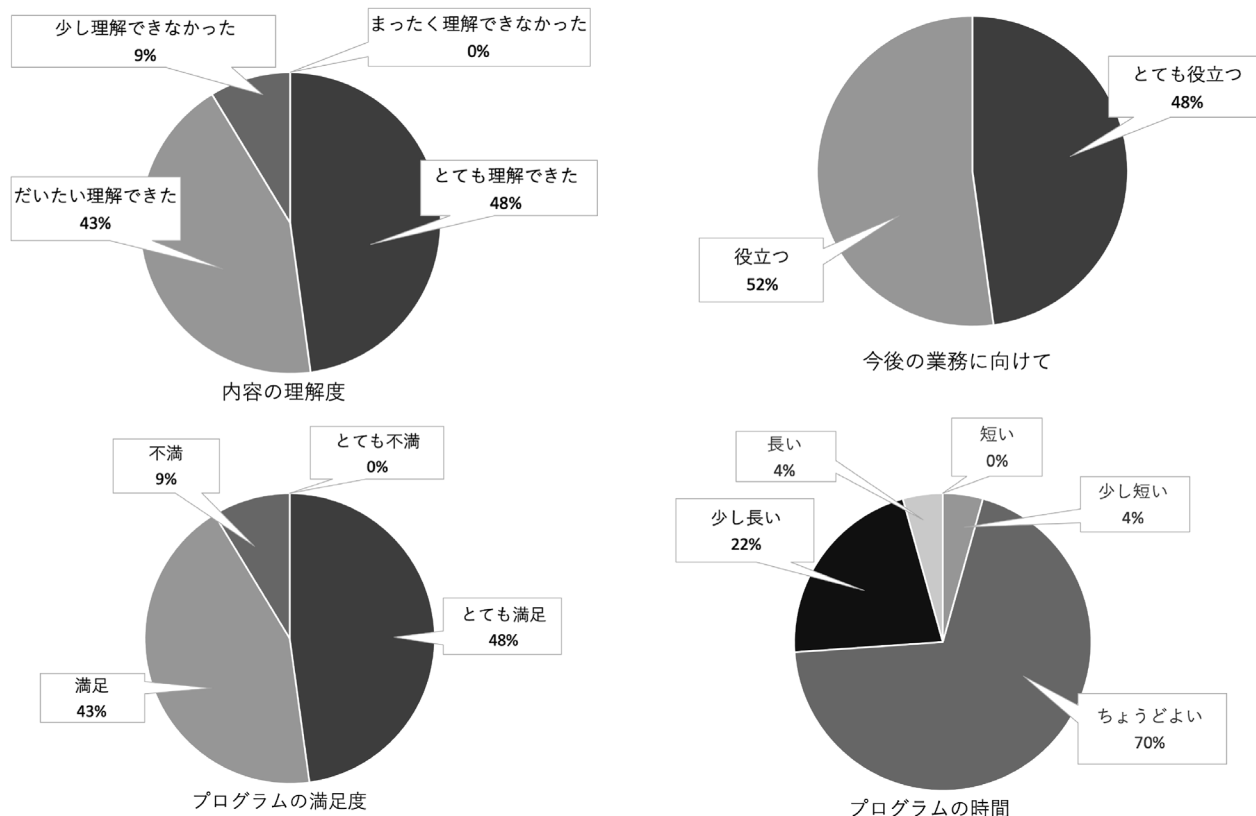


図4 2024年度第1回心理職対象HIV/AIDS専門カウンセリング研修会アンケート結果

分担研究者やその研究協力者が研修の立案に大きく関与し、かつスタッフとして協力した研修会について報告する。

1) 心理職対象HIV/AIDS専門カウンセリング研修会

1回目の開催日：2024年9月15～16日。場所：広島市文化交流会館（広島市）。前述の薬剤師向け研究会と共催。中国四国ブロック内のHIV治療施設に勤務する心理職及び福祉職を対象に集合形式で開催し28名の参加があった。HIV感染症の医学的知識と心理社会的支援に関する講義に加え、実際の支援場面を想定したロールプレイとグループディスカッションと事例検討を行った。事後アンケートでは、理解度・満足度ともに90%以上の参加者が「満足」と回答していた。一方、プログラムの時間については、約30%の参加者が「長い」と回答していたため、次年度はプログラムスケジュールの検討を行う必要がある【図4】。

2回目の開催日：2025年2月23日（入稿時予定）。場所：サンポートホール高松（高松市）。本研修会は、1回目と異なり心理職のみの単独開催である。HIVカウンセリングの専門性を高めることを目的に、中国四国ブロック内のHIV診療施設勤務の心理職及びHIV派遣カウンセラーを対象に事例検討会を行う予定である。

2) HIV抗体検査相談従事者のためのカウンセリング研修会

開催日：2024年7月5日。場所：エールエールA館（広島市）。中国四国ブロック内のHIV抗体検査相談に従事する医師、保健師および派遣カウンセラーに加え、今年度より広島県内の電話相談事業を実施する団体にも対象を広げたことにより、例年より多い39名の参加があった。HIV検査に関する講義と当事者の話、架空事例を用いたロールプレイで構成した。研修参加前アンケートでは、受験前の面談や告知時の対応に「自信がない」と回答した参加者が多かったが、参加後は、「少し自信がある」との回答が多く見られた。また、半年後のアンケート結果でも同様の結果が得られた。

3) 全職種対象の研修会（包括カウンセリングセミナー：広島県臨床心理士会主催）

開催日：2025年1月11～12日。場所：アークホテル岡山（岡山市）。開催形態：参集。中国四国ブロック内の中核拠点病院及び拠点病院のうちHIV診療を行っている医療機関を対象とした研修会を開催した。全体で17施設69名の参加があった。今回は、4施設の心理・社会的問題を抱えた症例を検討した。研修会終了後アンケートでは、「課題を多く抱える方に多職種で連携しながら支援されていることにと



図5 発行・配布している小冊子一覧

でも勉強になった」、「患者さんの思いに寄り添いながら適切な医療を提供できるよう多職種で取り組まれている、自施設でも取り組んでいきたい」といった感想があった。

4) 地域連携に携わるソーシャルワーカーと看護師を対象にしたHIV/AIDS実践報告会・検討会のためのワーキンググループ

開催日：2024年12月17日。参加者での開催。参加者：広島県内エイズ拠点病院HIV担当ソーシャルワーカー・看護師、広島県・広島市・呉市・福山市のHIV担当者、計15人。

HIV感染があることで、患者の受入れに消極的になる現状は依然として続いており、その課題解決のために、広島県近郊の医療機関や施設に在籍し、患者受入れ業務に携わるソーシャルワーカー・看護師を対象としたHIV/AIDS実践報告会・検討会を企画した。今年度は県内の課題を集約することを目指し、本院含む県内のエイズ拠点病院のソーシャルワーカーと看護師、そして広島県、広島市、呉市、福山市のHIV担当者と共にワーキンググループを立ち上げ、連携体制を構築した。

[2] エイズ関連の教育資料

2-1. 小冊子・パンフレット等

「現在、本研究費で作成・発刊している小冊子・パンフレットは【図5】の通りである。今年度は、「No Problem!」「かかりつけ医のためのよくわかるHIV感染症診療ガイド」「血友病まねーじめんと」を改定した。

[3] その他医療・福祉体制の構築に関する取り組み

3-1. 中四国エイズセンターホームページ (<http://www.aids-chushi.or.jp>) による情報発信

本院主催の会議や研修会の様子を掲載した。また前述の小冊子の案内や、中国四国地方で行われるエイズ・HIVに関する研修会・イベントの案内、血友病薬害被害者対象検診外来のお知らせ等を掲載している。(2024年1年間の閲覧数93,599回)。

3-2. 薬害被害者検診事業

2018年度より「血友病薬害被害者対象検査入院」(検査入院)、2021年度より「血友病薬害被害者検診外来」(検診外来)を行っているが、共にその費用は保険請求せず、全て研究費で工面することとしている。2024年度は検査入院が3人であった。内容

は、血友病に関連する関節や身体機能に関する項目や腫瘍マーカーなどの血液検査で、それ以外の画像検査の項目については受検者の希望とした。今年の新規受検者は、山口県出身で福岡在住者であり、本事業が周知されている結果と言える。

3-3. 血友病薬害被害者支援「なんでも相談 とも」

中国四国地方および近隣県在住の血友病薬害被害者を対象に、MSW、看護師、心理師が相談者となり、生活上の問題や不安を解決に導く目的で作年度より始まった。具体的な相談法は、電話、オンライン面談（オンラインソフトやスマートフォンを利用）、対象者宅への訪問などである。周知方法は、中四国エイズセンターホームページへの掲載、拠点病院HIV/血友病診療医宛てに概要の送付、薬害被害者支援団体から登録者への概要送付などである。現在もこの事業を継続している。

3-4. 介護福祉施設向けのエイズ教育資料（動画）作成

患者の高齢化に伴い、介護福祉施設で支援を受ける患者も増加しているが、受け入れ側である施設の拒否感は続いている。その理由として、依然としてHIV感染症は、「感染力が強い」「致命的な疾患」といった、40年前の知識がアップデートされていないことが想像される。

それらを払拭するための教育動画を作成した。次年度以降、研修会の前に上映したり、その他ホームページ等を用いて配信する予定である。

D. 考察

考察は以下の通り研修会別に述べる。

医師向け研修会：

近年の参加者は、研修医または卒後10年以内で、これからHIV診療を担う世代となっている。そのため、当初講義内容は、新薬の紹介や最新の知見などを盛り込んでいたが、この分野にこれから入ってくることから初心者向けの内容にならざるを得ない。各ブロックにおいても若手医師の育成が課題となっているが、その理由を筆者なりに考察すると、①外来での治療が中心であり、病棟中心の医学生・研修医教育が現状では、患者を担当する機会がない②疾患背景や医療体制が特殊で、自分にその役割が担えるか不安 などではないだろうか。以前のような、医療者への感染に対する恐怖、セクシャリティに対する嫌悪感は、若い医療者にはほとんどなくなっているものの、自分の上司や他職種（看護師な

ど）が持つ古い知識や偏見が、彼らがHIV診療を始める上での阻害因子となっている。

これらの問題を解決するためには、歯科医師向け研修会のように、病院の科長・部長レベルに対する教育や、開業医・医師会などに対する働き掛けも必須であろう。しかし、現在の平日2日間のプログラムでは、そういった立場の医師の参加は逆に困難である。全く別のプログラムを企画する時期に来ているのかもしれない。

次年度には、本研修会とは別に看護師が行っているような症例検討会を、オンラインまたはハイブリッドで行うことも計画している。

歯科医師向け研修会：

中国・四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議においては、昨年中国・四国全県から歯科医師会関係者の出席があったが、今年も香川県からの出席がなかった。中四国では香川県のみHIV歯科診療ネットワークが構築されておらず、依然として課題である。しかし、構築された県においても、ネットワーク参加歯科医師の地域的な偏在がある。今後はその偏在の解消についても考えて行かなければならない。また一般開業歯科医向け研修会は、歯科医療従事者のHIV感染症への理解を促すことがHIV診療拒否問題を解決するうえで重要な役割を果たすことが確認できた。

看護師向け研修会：

初心者向け研修会の各講義のアンケートから、講義内容は、理解でき満足度の高い講義内容であったことが伺えた。しかし、一部の研修受講者より「症状別看護を学べたらよかった」「具体的な対応を聞きたかった」という意見があり、研修受講者が具体的なケーススタディや実践的な対応策を学びたいというニーズもあることが分かった。また、本院の初心者研修の受講が2回目である方が2名いた。現在当院ではアドバンストコースを実施していない。そのため、ACCで行われているアドバンストコースの活用や広島県臨床心理士会が主催している「包括的HIVカウンセリング研修会」の活用を検討し、今後も継続して学びの場を提供し、HIV看護のスキルアップにつなげていくことが大切である。

次年度も初心者研修を行い、看護師の知識とスキルの向上を図ることで、HIV患者への質の高いケアを提供ができる看護師の育成に寄与していく。

事例検討・症例報告については、満足度の高い結果となった。自施設では未経験の症例や対応について知ることができたという意見が多く、今後同様の

ケースがあった場合の対応について学ぶことができ有意義であったと思われる。また、コメンテーターのアドバイスが参考になってとの意見も多く経験値の高いコメンテーターから具体的なアドバイスを得られたことも学びを深めることができ、満足度の向上につながったと推察される。来年度も会議の中に事例検討を含むことについて92%が希望すると回答しており、来年度も今年度と同様に事例検討や症例報告を行う方針とする。

薬剤師向け研修会：

現地で行うことで各施設のHIV感染症に関わる薬剤師が顔の見える関係となり、多くの情報交換を行うことができた。現地開催の研修会の実施や、多職種でディスカッションやロールプレイを行う機会は貴重であり、直接対話することで多くの情報交換を行うことができた。また、ブロック内のHIV感染症に関わる薬剤師と顔の見える関係となり、今後の連携において非常に有用であったと考える。今後も薬剤師のレベルアップにつながるよう継続した研修会を開催していきたい。

心理職向け研修会：

第1回目の専門カウンセラー研修会は、薬剤師と合同開催であった。そのため他職種（主に薬剤師）の意見も反映され、より実りのある研修を行うことができた。全体的に「多職種で意見交換できたことがとても有意義だった」「長期療養にむけた支援について学ぶことができた」などの感想があり、他職種で学ぶことの意義はあったと思われる。

全職種対象の研修会（包括カウンセリング研修会）は、25年目を迎える。対象者は、ブロック及び中核拠点病院の全職種であったが、担当者の退職や転職、あるいは多忙に伴うスケジュール調整難などの理由により、以前と同じようにブロック・中核拠点病院の全職種が揃っての参加は困難になってきている。しかし、全職種が揃っていなくても困難事例を抱えている病院、あるいはこれからHIV診療チームを構築・再構築する病院なども存在するため、そういった病院の参加者にも満足いく内容に変更していく必要がある。チームが構築され機能している病院の『自慢大会』ではなく、あくまでも事例検討を通じての適切なチーム機能の構築を目的とすべきであろう。本研修会は、本研究班主催のものではないが、共催の立場を取っているため、開催主体である「広島県臨床心理士会」と綿密な協議が必要である。

福祉職（MSW）向け研修会：

患者の高齢化に伴い、慢性期の診療にあたる慢性

療養病床保有病院、介護施設、在宅へと、その診療の場がシフトしていく。それらを踏まえ、今後の出前研修などの働き掛けは、非拠点病院などの非専門病院ではなく、透析施設、リハビリテーション施設、障害者福祉施設などの職員を対象にしていかなければならない。これらの職員のエイズの知識は、90年代前半の有効な治療薬がない時代で止まっており、一朝一夕にこういった職員の意識と知識を変えていくことはできないが、少なくとも現在我々がケアしている患者の行き場がなくならないよう働き掛けを続けていく必要がある。

その一つの新たな動きとして、本報告書1-7.4)にあるとおり、「地域連携に携わるソーシャルワーカーと看護師を対象にしたHIV/AIDS実践報告会・検討会のためのワーキンググループ」を立ち上げた。また県内の中核拠点病院である福山医療センターが福山市と協働で、高齢者施設向けの研修会を企画している。

このように日頃から、HIVに関する情報を発信し続け、必要な時にはHPにアクセスして、出前研修を受けなくても必要な情報だけ（しかも正しい情報）を得られるようにしておくことが、解決策の一つになるかも知れない。

その他の取り組みについて：

ホームページの閲覧数は、昨年比べて約20%減少した。その理由は魅力的な新規コンテンツがなかった、あるいはエイズ・HIV感染症に関する特別なニュースがなかったことが考えられた。前述の「福祉職（MSW）向け研修会の考察」にも述べたように、ホームページの内容の充実のみならず、内容の宣伝に力を入れ、日頃から閲覧してもらう努力が必要と痛感した。

教育資料として、今年度は「血友病まね～じめんと」をはじめとして、「No Problem」「かかりつけ医のためのよくわかるHIV感染症診療ガイド」の小冊子を改定した。いずれも、今後地域でHIV陽性者あるいは血友病患者を診療することを見据えたものである。次年度は、「[HIVを持つ人のケアをするスタッフのためのガイドブック]」（仮題）を新規作成予定である。動画閲覧と同様、実際に手に取るにより身近に感じる内容を目指していきたい。

E. 結論

ブロック内のエイズ拠点病院に対する職種別研修は、内容や対象者を再考しながら常にアップデート

していく必要がある。また研修会開催形態も、その時々事情により柔軟に変えていくべきである。さらに、拠点病院以外の非拠点病院の医療従事者や介護施設の従事者に対しては、HIV感染症が安定している患者あるいは血友病患者の受け入れ拒否がないよう、小冊子を作成して非専門病院・施設に配布、あるいは「出前研修」やホームページのコンテンツの見直しを行い、を必要時に必要かつ正確な情報を非専門施設のスタッフが取得し共有できるよう促していく必要がある。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) I Ngare, TS Tan, M Toyoda, T Kuwata, S Takahama, E Nakashima, N Yamasaki, C Motozono, T Fujii, R Minami, G Barabona and T Ueno. Factors Associated with Neutralizing Antibody Responses following 2-Dose and 3rd Booster Monovalent COVID-19 Vaccination in Japanese People Living with HIV. *Viruses*, 2024, 16, 555e doi : 10.3390/v16040555.
- 2) G Kenet, T Fujii. Safety of recombinant activated factor VII for treatment of breakthrough bleeds in patients with congenital haemophilia A and inhibitors receiving emicizumab prophylaxis : Review of the real-world evidence. *Haemophilia*, 2024, 30, 267-275
- 3) T Fujii, M Ishimura, S Takao, A Deguchi. Preference of treatment characteristics among people with haemophilia or their caregivers, and physicians in the Japanese healthcare environment. *Haemophilia* 2024, 30, 914-924.
- 4) Keiji Nogami, Teruhisa Fujii, Akihiro Sawada, Azusa Nagao, Chiai Nagae, Masanori Nojima, Nobuaki Suzuki, Daisuke Nosaka, Tomomi Shimura, Yoshimasa Sugao, Kagehiro Amano. Association of physical activity with bleeding events and safety in patients with haemophilia A starting emicizumab prophylaxis : an interim analysis of the TSUBASA study. *Int J Hematol* 2024, 119, 14-23.
- 5) Koga M, Fukuda A, Nojima M, Ishizaka A, Itoh T, Eguchi S, Endo T, Kakinuma A, Kinai E, Goto T, Takahashi S, Takeda H, Tanaka T, Teruya K, Hanai J, Fujii T, Fujitani J, Hosaka T, Mita E, Minami R, Moro H, Yokomaku Y, Watanabe D, Watanabe T, Yotsuyanagi H. Non-acquired immunodeficiency syndrome defining malignancies in people living with haemophilia and human immunodeficiency virus after direct-acting antiviral era. *Glob Health Med* 2024, 6, 316-323.

2. 学会発表

- 1) 杉本悠貴恵、坂本涼子、木村聡太、杉野祐子、大金美和、東 政美、藤井輝久、藤谷順子、渦永博之：メンタルヘル스에課題のあるHIV陽性者に対する看護職と心理職の協働支援とは～全国のHIV陽性者に携わる看護職と心理職の相互交流セミナーのアンケート調査より～. 第38回日本エイズ学会学術集会・総会.2024年11月28日～30日. 東京
- 2) 菊地 正、西澤雅子、椎野禎一郎、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、渦永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、佐野貴子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、渡邊珠代、今橋真弓、蜂谷敦子、松田昌和、重見 麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南 留美、松下 修三、仲村 秀太、小島潮子、LuckyRuntuwene、吉村和久、杉浦 互：2023年の国内新規診断未治療HIV感染者・AIDS患者における薬剤耐性HIV-1の動向. 第38回日本エイズ学会学術集会・総会.2024年11月28日～30日. 東京
- 3) 藤井健司、石井聡一郎、山崎尚也、藤井輝久、松尾裕彰：抗結核薬との相互作用を考慮してARTを変更した1例. 第38回日本エイズ学会学術集会・総会.2024年11月28日～30日. 東京
- 4) 後藤志保、喜花伸子、重信英子、山崎尚也、坂本涼子、獅子田由美、芳本和子、杉本悠貴恵、藤井輝久：HIV外来診療における患者ニーズの検討—電子問診票導入時に行った患者調査から. 第38回日本エイズ学会学術集会・総会.2024年11月28日～30日. 東京
- 5) 岡田美穂、新谷智章、川越麻衣子、岩田倫幸、山崎尚也、藤井輝久、柴 秀樹：HIV陰性およ

びHIV陽性の血友病患者の口腔環境と口腔機能の評価. 第38回日本エイズ学会学術集会・総会.2024年11月28日～30日.東京

- 6) 岡田美穂、新谷智章、川越麻衣子、武田克浩、岩田倫幸、古玉大祐、中西 惇、中岡美由紀、山崎尚也、藤井輝久、水野智仁、加治屋幹人、柴 秀樹：血友病患者における口腔環境と口腔機能の評価.第67回秋季日本歯周病学会学術大会.2024年10月3日～5日.札幌

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし